

刊行あとがき

ここに、『経済同友会三十年史』を刊行する。

今次『年史』の編纂に当っては、まず、会員各位をはじめ常日頃経済同友会を支援していただいている各界の方々に、「気軽に掌にしてお読みいただける体裁のものを作成する」ことを目指した。

つぎに、執筆は、「十年史」(三十一年十一月刊)、「十五年史」(三十七年四月刊)について、三たび羽間乙彦氏をわずらわしたが、それは従来と同様に本会の事業と成果をできるだけ客観的に位置づけて叙述するためであった。

また、「手頃な本」という意図から紙幅が限られ、創立以来三十年間の歴史を全期間を通じ細大もろさず所収することには限界があったため、後期十五年の主要な業績を中心に編纂することとした。加えて、多彩な動きを動機づけた諸背景も自ら最小限にとどめざるを得なかった。

しかし、「次の年史は」ということになると、おそらく「十年後」ないし「二十年後」ということであろう。このため、できるだけ最近時の活動まで所収することに努めた。この点、執筆者には、一面倒を掛けることになったが、結局五十一年十月現在までの記録が盛り込まれている。

一通り執筆原稿の校閲を終えて概観するに、なんとわが同友会の歴史は戦後日本経済の歩みと軌を一にして広範・多岐にわたるものであったか、また同友会に集う経営者諸氏がいかに気概をもって世

界の自由経済秩序形成に立ち向かっていったか、その経緯は、*「まさに壮大なドラマの展開」*である、
といっても過言ではない。

このような同友会を育てあげた多数の指導者のなかで、諸井貫一・大塚萬丈・浅尾新甫・山際正道・岸道三の歴代代表幹事が既に故人となられ、この書を捧げることができないのを誠に残念に思う。
わが国経済社会の前途は、ますます厳しいものと思う。しかも、それは未踏の世界である。こうした状況にあって、将来を切り拓いていくには、初心に立戻って、われわれが自ら歩んできた歴史に学ぶところが多いことを疑わない。この年史が、そういった意味からいささかでも参考となれば幸いである。

最後に、本史の刊行に当たり、温かいご協力を賜わった中和印刷株式会社の石崎守利常務取締役
心からお礼を申し上げる次第である。

昭和五十一年十一月三十日

専務理事 山下 静 一